

研究課題名	経腸栄養材を投与している脳卒中患者に対して、下痢発生後の継続日数減少に向けた介入の検討
実施責任者	所属・職名： 6 南病棟 看護師
	氏名： 中野 里音
研究の概要	当部署は脳神経外科を主とした病棟であり脳卒中により嚥下障害が出現し、胃管カテーテルから経腸栄養を投与している患者さんが多いです。浸透圧の高い経管栄養剤の注入は、腸蠕動の亢進による高浸透圧性の下痢症の原因となることが見受けられます。また、当院では院内採用の「下痢発生時の経腸栄養剤と振り分けプロトコル」が存在し、下痢発生時に使用する経腸栄養剤や食物繊維・粘度調整食品が記載されています。しかし、具体的にどの順番で変更・追加することで早期に下痢が減少するかは明記されておらず、本研究を通してより詳細な介入方法を検討しプロトコルの作成を目指します。
対象となる個人情報	電子カルテシステムより、経管栄養を投与している患者情報や具体的な経管栄養の内容、下痢の継続日数などの情報を収集します。下痢に対するさまざまな看護介入を行い、下痢の継続日数の変化を調査します。この内容に氏名、住所といった個人を特定できるような情報は含みません。
実施の期間	西暦 2024 年 5 月 28 日より
	西暦 2025 年 11 月 30 日まで
研究対象	名古屋掖済会病院 6 南病棟に入院している脳卒中患者様の中で、胃管カテーテルより経腸栄養剤を投与している、かつ下痢が発生している患者様が対象となります。